

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

岩手県 地域セミナー 報告書

2018（平成 30）年 9 月 6 日（木）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県地域セミナーが開催されました。当日の事業概要の説明には、今年度の推進校のうち 10 校の先生方にご参加いただき、下記の要項にて執り行われました。

【開催概要】

日時：2018（平成 30）年 9 月 6 日（木）14 時 00 分～16 時 20 分

会場：アイーナ 会議室 701

主催：岩手県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：15 名（小学校 3 名、中学校 3 名、高等学校 3 名、特別支援学校 1 名、その他関係者 5 名）

プログラム：

14：00～ 開会の挨拶

岩手県教育委員会事務局保健体育課 総括課長 荒木田 光孝 氏

14：10～ 事業概要説明

テーマ「オリンピック・パラリンピック教育とその進め方」

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員 吉永 武史 氏

15：40～ 休憩

15：50～ 質疑応答及びグループワーク

16：10～ 連絡

16：20 閉会

開会にあたり、岩手県教育委員会事務局保健体育課の荒木田総括課長より、「昨年度、岩手県で開催された国体では多くの感動が生まれ、素晴らしい成功を収めることができました。それに続き、来年度開催予定のラグビーワールドカップや 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックなどに向けて、より一層、子どもたちに規範意識や国際理解の教育を推進していきたいと思っております。また、昨今では、スポーツの負の側面がメディアで連日取り上げられていますが、子どもたちにはスポーツが本来持っている素晴らしい価値に触れてもらい、大きな希望を持てるような取組みにしていきたいと思っております。」という旨の挨拶がありました。

次に、本センターの吉永主幹研究員より、本事業に関する概要の説明や、他県におけるオリンピック・パラリンピック教育の事例紹介ならびに進め方について説明がありました。概要の説明では、事業発足の経緯や、オリンピックとパラリンピックの価値についての説明がありました。また、過去のオリンピック・パラリンピック教育の実践で実施した子どもたちへのアンケートでは、「夢や目標を持つことの大切さに気付いた」や、「障がいの有無は関係ない」などの感想が多くみられたことや、子どもたちがオリンピック・パラリンピック教育を通して、多様性を認めることや共生社会について考えることができるようになったという成果にもとづき、オリンピック・パラリンピック教育を実践していくことの意義や重要性が述べられました。さらに、オリンピック・パラリンピック教育の進め方については、小学校における「総合的な学習の時間」や、中学校・高等学校における保健体育科の「体育理論」などでの指導案が紹介されました。それらを事前・事後学習を実施する上での参考としな

がら、より充実したオリパラ教育を実施していただきたいとの説明がありました。

休憩後には、3つのグループに分かれてグループワークを行いました。昨年度推進校だった学校を中心に、オリンピック・パラリンピック教育の進め方や課題などについての意見交換が行われました。各学校では、事前にオリンピック・パラリンピック教育の実施計画が作成されており、それらを共有しながら、「競技力の向上という側面だけでなく、努力することの大切さを学ばせたい」や、「キャリア教育にも結びつくように、系統立てて取り組んでいきたい」などと、より具体的な意見が出されました。



荒木田 光孝 氏



橋本 ゆかり 氏



吉永 武史 氏



DVD 上映中の様子



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②



ワークショップの様子③



記念撮影